



国際派職員への第一歩

クレア勤務の3年間、本部企画調査課で広報や会議運営、シドニー事務所姉妹都市交流、JETプログラムの促進などさまざまな業務に携わりましたが、特に思い出に残っているのは海外都市の行政制度・政策の調査研究です。

海外の制度を学ぶ絶好の機会

それまで海外留学等の経験がなく、学生時代に英語が大の苦手だった私にとって、海外の行政制度は複雑で理解しがたいものでしたが、海外事務所では、行政経験の豊富な上司や、その国の文化に詳しい現地職員の指導を受けながら調査を行うことで、理解が深まりました。海外事務所は職員のやる気を尊重しつつ、育成してくれる環境で、都市計画、政策立案、スポーツ行政などさまざまな分野の研究を行うことができました。現地の自治体等へのヒアリングや文献調査を通じて、結果的に、冊子「オーストラリア・ニュージーランドの地方自治」の更新に加え、5本のクレアレポートの執筆や、外部の専門誌、大学の紀要等への寄稿も行いました。その他、現地の州政府や市との調整などにおいても、都庁に入って数年の20代職員ではなかなかできない経験を積むことができ、クレアには感謝してもしきれません。



ニュージーランドのパーマストンノース市長と（中央が筆者）

国際派職員として

クレアからの帰任後は都庁の外務部で国連や北米各都

東京都政策企画局計画部計画課 主任 小松 俊也
市等との調整を担当しました。難しい調整が求められる場面もありましたが、クレアでビジネスメールの書き方についても指導を受けていたため、円滑にこなすことができました。また、クレアでの調査研究を通じて海外の制度を理解したからこそ、相手都市の事情を考えた調整もできました。流動的な国際情勢に応じて、海外の情報を迅速に収集しなければならない場面でも、クレア勤務で培った調査研究能力が役立ちました。南カリフォルニア大学で東京都の都市外交について講義を行う機会もありましたが、ここでもクレア勤務中に幾度か大学のゲストスピーカーを担当した経験が生きました。

今年の4月からは計画部に異動し、SDGsの達成や地方との共存共栄に向けた計画策定に取り組んでいます。SDGsは国際的な目標ですし、一方で、地方との連携には日本全国に目を向ける広い視野が求められます。クレアで培った語学力や国際感覚、また、日本のさまざまな自治体から集まった職員とともに、全国の海外活動を支援した経験が、都職員として働く上でのかけがえのない財産になっています。



南カリフォルニア大学で都の都市外交を説明する筆者

プロフィール

- 現在の所属：東京都政策企画局計画部計画課主任
- クレア時代の所属：
 - 2015年4月～2016年3月 東京本部総務部企画調査課
 - 2016年4月～2018年3月 シドニー事務所
- 帰国後、外務部事業課を経て、現職